

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

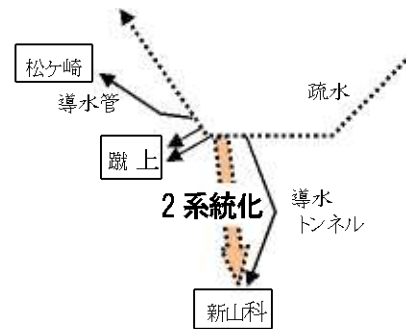
上下水道局

<b>事務事業名</b>	災害時にも安定給水するための 「連絡幹線配水管の布設」																	
<b>予 算 額</b>	572,000 千円	<b>新規・継続の別</b>	継続															
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠															
<b>担 当 課</b>	水道部 管理課 (672-7743)																	
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>                  平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、耐震化がなされていた水道管路については、阪神淡路大震災と同様に、被害を受けていないことが報告されており、改めて耐震化の有効性が示された。                  そこで、本市においては、老朽化した配水管の更新及び耐震化を推進するとともに、給水の相互融通を可能とする連絡幹線配水管（※）を整備するなど、地震等の災害に強い高水準な水道システムを構築するため、水道管路の地震対策を積極的に進めている。</p> <p>※ 連絡幹線配水管                  隣接する異なる給水区域の配水幹線を耐震化された水道管路により連絡させるもの。これにより、京都市内の3浄水場のうち1つが地震等の災害による事故で給水ができなくなった場合においても、他の浄水場から給水が可能となり、安定して給水できる体制が構築できる。</p> <p><b>[事業概要]</b>                  平成27年度は、平成26年度に引き続き、蹴上最高区系と松ヶ崎最高区系の幹線をつなぐ吉田連絡幹線配水管布設工事を実施するとともに、松ヶ崎高区系と山ノ内高区系の幹線をつなぐ花園連絡幹線配水管布設工事に着手する。</p> <table border="1" data-bbox="236 1675 1358 1794"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画延長</th> <th>布設済延長</th> <th>H27 布設予定延長</th> <th>残延長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吉田連絡幹線 φ600mm</td> <td>約 5.5km</td> <td>4.6km</td> <td>0.9km</td> <td>約 0.0km</td> </tr> <tr> <td>花園連絡幹線 φ600mm</td> <td>約 1.8km</td> <td>0.0km</td> <td>0.6km</td> <td>約 1.2km</td> </tr> </tbody> </table>					計画延長	布設済延長	H27 布設予定延長	残延長	吉田連絡幹線 φ600mm	約 5.5km	4.6km	0.9km	約 0.0km	花園連絡幹線 φ600mm	約 1.8km	0.0km	0.6km	約 1.2km
	計画延長	布設済延長	H27 布設予定延長	残延長														
吉田連絡幹線 φ600mm	約 5.5km	4.6km	0.9km	約 0.0km														
花園連絡幹線 φ600mm	約 1.8km	0.0km	0.6km	約 1.2km														
<p><b>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</b></p>																		

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

事務事業名	災害に備えた「導水トンネルの2系統化」		
予 算 額	310,000 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	水道部 施設課(672-7767)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b></p> <p>各浄水場の取水池と着水井を結ぶ導水管については、蹴上浄水場は2経路持っているが、新山科浄水場、松ヶ崎浄水場についてはそれぞれ1経路のみである。</p> <p>地震等災害時に備え、現在市内給水量の約半分を担う新山科浄水場で原水を安定的に取水できるよう新たに導水トンネルを築造して2系統化し、地震等災害時のバックアップ体制の強化を図ることが必要である。</p> <p>これまで、第2疏水と新山科浄水場を結ぶ新山科浄水場第2導水トンネル築造を目的に、ルート選定や必要口径等の基本条件を決定するため、地質調査や水理計算等を実施するとともに、平成26年度から、当該工事の発進立坑用地である管理型最終埋立処分場を廃止し、発進立坑用地の整備を行う準備工事に着手している。</p> <p><b>[事業概要]</b></p> <p>平成27年度においては、引き続き、準備工事を行うとともに、平成28年度から新山科浄水場第2導水トンネル築造工事に着手するため、実施設計を行う。</p>			
<p><b>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</b></p>			



# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

事務事業名	雨に強いまちづくりに向けた「雨水幹線の整備」		
予 算 額	1,598,000 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	下水道部 計画課(672-7839)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>            近年、台風に伴う広域で長時間におよぶ大雨や、局地的で短時間の集中豪雨などが多発していることに加え、地下街等の地下空間の浸水対策も大きな課題となっていることを踏まえ、雨に強いまちづくりに向け、雨水幹線の整備を着実に進めていく必要がある。</p> <p><b>[事業概要]</b>            整備中の塩小路幹線、山科三条雨水幹線、新川6号幹線について工事を進めるとともに、<u>祇園地区で花見小路幹線、伏見大手筋地域で伏見第3導水きよ、山科北部地域で山科川13-1号雨水幹線の整備に新たに着手する。</u></p> <p><b>[継続]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 塩小路幹線（京都駅周辺地区）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ3,200mm</li> <li>・延 長 L=1,720m</li> </ul> </li> <li>○ 山科三条雨水幹線（山科駅周辺地区）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ1,500mm</li> <li>・延 長 L=2,260m</li> </ul> </li> <li>○ 新川6号幹線（阪急桂駅東側地域）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ2,200mm</li> <li>・延 長 L=1,180m</li> </ul> </li> </ul> <p><b>[新規]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>花見小路幹線（祇園地区）</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ1,800mm</li> <li>・延 長 L=約850m</li> </ul> </li> <li>○ <u>伏見第3導水きよ（伏見大手筋地域）</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ3,000mm</li> <li>・延 長 L=約2,300m</li> </ul> </li> <li>○ <u>山科川13-1号雨水幹線（山科北部地域）</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口 径 φ3,750mm</li> <li>・延 長 L=約720m</li> </ul> </li> </ul> <p>参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

<b>事務事業名</b>	集中豪雨時にマンホールふたの飛散等を防ぐための「空気抜き施設の設置」「飛散防止型マンホールへの交換」		
<b>予算額</b>	180,000 千円	<b>新規・継続の別</b>	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
<b>担当課</b>	下水道部 管理課(672-7834)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>                  これまでから、下水道幹線のマンホールふたが局地的大雨により飛散する事故防止を目的として、下水道管内の圧力を下げるための空気抜き施設の設置や、飛散防止型マンホールふたへの交換を行っている。</p> <p>しかしながら、平成26年8月、短時間に非常に強い雨が降り、下水道管に雨水が一気に流入し、下水道管内の空気の圧力が高まってマンホール周辺の路面の隆起が生じたり、マンホールふたが飛散する被害が発生した。</p> <p><b>[事業概要]</b>                  平成27年度は、昨年の被害を踏まえた対策を重点的に実施することとし、流入量の多い幹線32路線において、下水道管の圧力の高まりやすい箇所（約800箇所。平成26年度の実施箇所も含む。）の旧型マンホールふたについて、飛散防止型マンホールへの取替えを実施する。</p> <p>また、空気抜き施設については、平成26年8月に路面隆起した、堀川通の2箇所（中京区役所前、堀川高校前）において平成27年6月末までに設置し、その他の箇所については、今後設置に向けて検討を行っていく。</p>			
<p><b>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</b></p>			

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

事務事業名	老朽化した水道管の更新と耐震化の促進		
予算額	6,850,000 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担当課	水道部 管理課 (672-7743)		
<p><b>〔事業実施に至る経過・背景など〕</b>  日常生活に欠かすことのできないライフラインである水道を将来にわたって安心して使い続けるため、昭和40年代から50年代初めにかけて布設した大量の配水管の計画的な更新が必要である。</p> <p>また、東日本大震災において、耐震化がなされていた水道管路については、被害を受けていないことが報告されていることから、水道管路の更新による耐震化の必要性が高まっている。</p>			
<p><b>〔事業概要〕</b>  平成27年度の上水道整備事業費162億のうち、<u>老朽管更新事業として、68億5,000万円を確保し、水道管路の更新をペースアップし、耐震化をより一層効率的・効果的に進めていく。</u></p> <p>具体的には、配水管の更新率を平成26年度の0.9パーセントから、1.0パーセントに引き上げる。配水管の更新に当たっては、漏水時に断水等の影響が大きい口径200mm以上の配水管のうち、老朽化が著しい管路、過去に漏水が生じた危険性の高い管路、代替機能のない管路などを優先して、耐震性の高い「高機能ダクタイル鋳鉄管」への布設替えを実施する。</p> <p>(主な事業内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線配水管布設替え 3.0 km</li> <li>・ 支線配水管布設替え 23.0 km</li> <li>・ 補助配水管布設替え 8.0 km</li> </ul>			
<p><b>〔参 考 (他都市の状況・事業効果など) 〕</b></p>			

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

事務事業名	老朽化した下水道管の更新と耐震化の促進		
予 算 額	2,060,000 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	下水道部 計画課(672-7839)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b></p> <p>老朽化した下水道管の中には、強度や耐久性が低下しているものがあり、これらが損傷した場合、下水の流下能力の低下に伴う溢水や道路の陥没等が発生し、市民生活に大きな影響を与える可能性がある。</p> <p>また、平安建都1200年での整備完了を目指して、平成6年までに布設した膨大な下水道管が、順次更新時期を迎えている。</p> <p>市民生活を支える重要なライフラインである下水道を、将来にわたって安心して使い続けるため、老朽化した下水道管の計画的な更新や耐震化を進め、地震に強い下水道の整備を推進していく必要がある。</p>			
<p><b>[事業概要]</b></p> <p>平成27年度の公共下水道建設事業費182億6,000万円のうち、老朽管更新対策費として、20億6,000万円を確保し、下水道管の更新や耐震化を進めていく。</p> <p>具体的には、下水道総合地震対策事業(国庫補助)を活用して、老朽化した下水道管の更新や布設替えを進めるとともに、緊急輸送路下や避難所等からの排水を受ける重要な管路を耐震化し、下水道機能の維持・向上を図る。</p> <p>平成27年度は、老朽化した下水道管と重要な管路(延長30km)について、管更生や布設替えといった対策を行う。</p>			
<p><b>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</b></p>			

# 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

<b>事務事業名</b>	山間地域における水道施設の再整備等		
<b>予 算 額</b>	3,664,850 千円	<b>新規・継続の別</b>	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
<b>担 当 課</b>	技術監理室 地域事業課 (672-7790)		
<b>1 大原簡易水道再整備事業 (予算額 274,390 千円)</b>  <b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 大原簡易水道は、昭和45年に地元住民で設立された大原簡易水道組合により運営されてきたが、約40年が経過し、施設の老朽化が進み、消火水量の不足や水道使用時の水圧不足等の課題を抱えている。 このため、本市では、大原地域において安全・安心な水道水を将来にわたり安定して供給するため、平成21年10月に大原簡易水道の移管を受け、平成21年度から再整備事業を実施している。  <b>[事業概要]</b> (1) 事業内容 第1浄水場の整備 (膜ろ過設備の導入) , 第1配水池の新設及び老朽化した配水管等の布設替えなど (2) 総事業費 約18億円 (3) 整備期間 平成21~27年度 (4) 平成27年度予定 第1浄水場及び第2浄水場の整備工事など			
<b>2 中川・小野郷簡易水道 (仮称) 整備事業 (予算額 168,419 千円) (新規)</b>  <b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 中川簡易水道及び小野郷簡易水道は、平成9年3月に策定した「京都市水道未普及地域解消計画」に基づき整備を行ったが、近年、両水道の水源である井戸の水位低下の課題を抱えている。 このため両区域において安全・安心な水道水を将来にわたり安定して供給するため、中川浄水場内に新たな水源を確保し、両水道を結ぶ連絡配水管などを整備することとし、平成27年度から整備事業を実施する。 この整備により、両水道を統合し、名称を中川・小野郷簡易水道に改める予定である。			

**[事業概要]**

- (1) 事業内容 中川浄水場の整備（取水施設の新設）及び連絡配水管の布設など
- (2) 総事業費 約7億円
- (3) 整備期間 平成27～28年度
- (4) 平成27年度予定 中川浄水場整備工事及び連絡配水管布設工事など

**3 京北地域水道再整備事業（予算額 3,222,041千円）**

**[事業実施に至る経過・背景など]**

京北地域水道は、施設の老朽化が著しいことに加えて、水需要の増加に伴う水量不足や、広範囲に多くの浄水場が点在するため、管理の効率化などの課題を抱えている。

このため本市では、京北地域において安全・安心な水道水を将来にわたり安定して供給するため、平成18年3月に京北地域水道の再整備事業計画を策定し、平成19年度から再整備事業を実施している。

**[事業概要]**

- (1) 事業内容 ①既存の9事業・11浄水場を4事業・5浄水場に統合することによる施設管理の効率化  
②老朽化した施設の改築・更新及び浄水処理能力の向上による安全・安心で安定した水道水の供給
- (2) 総事業費 約79億円
- (3) 整備期間 平成19～28年度
- (4) 平成27年度予定 京北中部簡易水道…配水管布設工事、配水池等整備工事及び用地買収 など  
細野簡易水道…配水管布設工事及び配水池等整備工事 など

**[参 考（他都市の状況・事業効果など）]**



## 平成27年度 京都市予算案 事業概要

上下水道局

<b>事務事業名</b>	西部営業所等庁舎の整備		
<b>予 算 額</b>	820,000 千円	<b>新規・継続の別</b>	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
<b>担 当 課</b>	総務部 経営企画課 (672-7709) 技術監理室 監理課 (672-7708)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b></p> <p>京都市上下水道事業中期経営プラン(2013-2017)に基づき、防災機能の役割を充実させるなど、お客さまサービスのより一層の向上を図るため、営業所の再編を行う。営業所について、お客さまに対する利便性向上の取組と経営効率化の一層の推進、さらに防災機能としての役割強化の視点から、平成29年度までに9箇所から5箇所に順次再編する。</p> <p>また、営業所の再編と併せて、水道管路の維持管理業務を一元化し、市内北部エリアの防災拠点を整備する。</p> <p><b>[事業概要]</b></p> <p>平成25年3月末に廃止した山ノ内浄水場の跡地に、西京営業所と右京営業所を統合した西部営業所と水道管路管理センター北部配水管理課等が入る新庁舎を建設し、上下水道に関する総合窓口として、地域に根差した市民サービスの向上や防災機能の強化を図る。</p> <p>平成27年度は、新庁舎の平成29年度の開所に向けて工事に着手する。</p> <p>(今後のスケジュール)</p> <p>平成27年 3月 実施設計完了                  9月 建築工事業者の決定                  11月 建築工事着手</p> <p>平成29年 4月 竣工                  5月 開所</p>			
<p><b>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</b></p>			